

令和6年度

羽ノ浦小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自ら学び・考え、ともに高め合える授業の実践

○ねばり強く学習に取り組む態度の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

委員

校長:多喜川広伸 教頭:福島明子 教頭:田村卓也

教務:岩川計成 特支:日下優美 村崎智子

1年:森本尚美 2年:小笠広美 3年:土橋友菜

4年:久保佳加 5年:松岡沙知子 橋本慶一 6年:中磯千佳子

校長 多喜川広伸

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に前向きに取り組む児童が多く、基本的な学習内容は定着している児童が多い。 ●活用や説明する問題は苦手の児童がいる。また、学力の二極化が進んでいる。	・学習の構えができ、ともに学び合いながら該当学年の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。	・学年ごとに漢字テストを実施し、漢字の定着を図る。 ・算数補充プリントを活用する。必要に応じて前学年の学習内容の補充を行う。 ・「羽小っ子の学習ルール」を各教室に掲示し、学習規範の徹底を図る。	取り組み継続	・漢字ノートや小テスト、補充プリント、タブレットを活用して繰り返し練習することで、漢字テストの平均点の上昇が見られた。しかし、個人差は大きい。 ・学習ルールが身に付いてきたが、徹底まではできていない。	・タブレットの効果的な活用を図る。 ・学習のルールを度々確認し、学習規範の徹底を図る。 ・聞く力を身に付けるために、ソーシャルスキルを取り入れる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○創作活動などに継続的に取り組んできたため、豊かな表現力を身に付けた児童が育ってきている。 ●自分の考えや意見を進んで表現する児童は限られている。また、語彙が少なく、分かったことや自分の考えを書き表すことが苦手の児童が多い。	・語彙力・読解力を高め、自分の思いや考えを進んで表現し合うことができる。 ・調べ学習や話し合い活動においてタブレットを用い、考えを深めたり、友達の考えを理解したりできる。	・ホワイトボードや付箋・タブレットなどの活用、話し合い形態の工夫や手引き書の作成などで言語活動の充実を図る。 ・授業や集会活動などで、自分の思いや考えを発表したり書いたりする機会を多く作る。 ・読書の時間を定期的に設け、読書活動を推進する。	取り組み継続	・発表方法を工夫したりタブレットを活用したりすることで、意見や考えを伝え合うことができた。しかし、考えを深め合うところまではいっていない。 ・読書の時間を設けることで、読書に親しむことができた。	・国語科で学んだ話し合いの仕方を学級会で活かしていく。 ・全校で本の紹介の大会を開くなどプレゼンテーションの力を付けるような活動を取り入れる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて学習に取り組む、与えられた課題に真面目に取り組む児童が多い。 ●自分から課題を見付けたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服をしようとしたりする児童が少ない。	・見通しをもって、ねばり強く課題や家庭学習に取り組む、高め合うことができる。	・「家庭学習の手引き」の周知・活用、「家庭学習チャレンジシート」により、自主的・主体的に家庭学習に取り組む態度を育成する。 ・「羽小授業モデル」に沿った授業を展開し、児童が本時や次時の課題を明確にもてるようにする。	取り組み継続	・「家庭学習チャレンジシート」実施期間中は、望ましい学習習慣に向けて頑張る児童が多く、家庭への意識付けもでき、有効であった。 ・自主学習ノートに意欲的に取り組む児童が増えた。	・自主学習デーをつくることで主体的に学習する力を付けていく。 ・内容の優れている自主学習ノートを紹介することで、学習内容の質を上げていけるようにする。

令和6年度 学力向上ロードマップ

